

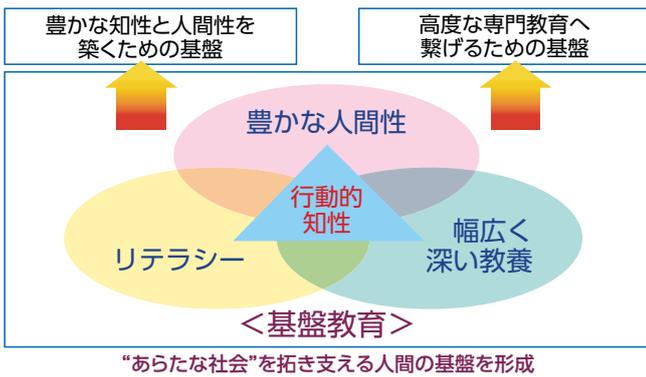
基盤教育

入学したすべての学生は、1・2年次を中心に基盤教育科目を受講します。基盤教育とは、幅広い教養を身につけて豊かな人間性を育むことを目的とした科目群のことです。近年は、実社会で即戦力となり得る人材の養成が求められています。そこで、宇都宮大学の基盤教育では、能動的学修を生かしたアクティブ・ラーニング科目や自由な学習空間ラーニング・commonsの開設など、学生の主体的学修を支援する取り組みを進め、全国的に注目を集めています。

人間の基盤を形成する 基盤教育科目

大学入学後は、専門教育に加え多くの教養教育を学びます。宇都宮大学では、この教育を「基盤教育」と呼んでいます。基盤教育は、4年間の学びの根や幹となり、大きな花を咲かせる上で欠かすことができない大切な学修です。宇都宮大学では基盤教育での学修を、しっかりと支援しています。

なぜ基盤教育を学ぶのか？



あらたな教養教育 アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングとは、一方的に授業を聴くだけではなく、学生自身が課題を意識し、主体的に「学ぶ」学修スタイルを指します。

グループワークやフィールドワーク、複数教員担当による学際性を重視するアクティブ・ラーニング科目を中心に、レポートなどのフィードバックやe-ラーニング活用の推進を通じて、学生とのコミュニケーションを重視する双方向型の授業づくりを進めています。



豊かな人間性を培う テーマ別教養科目

単位数の多い教養科目の履修では、宇都宮大学の教員の特性を活かした6つのテーマごと履修ガイドが示されています。ガイドに沿って履修すれば、専門とは異なる学問分野について系統立てて学ぶことができます。

	人文科学系	社会科学系	自然科学系	初習外国語系	総合系
栃木・日本
世界・地球
感性・表現
生命・環境
情報・技術
高齢社会を生きる

宇都宮大学の教員の特性に応じて6つのテーマごとに科目が開講されています

自由な学びの空間 ラーニング・commons

ラーニング・commonsは、自主的な学修のために24時間いつでも自由に利用できる学びの空間です。グループワークに適した机・椅子やホワイトボードなど学生同士の学びを促進するための設備があり、グループ討論などの経験のある専門スタッフが授業時間外の学生の学びをサポートします。



アクティブ・ラーニング科目をはじめとした授業と、ラーニング・commonsなどでの授業外学修とを合わせることで、自ら課題を見つけ、考え抜き、一歩前に踏み出す力などの行動的知性の獲得へ向けた能動的な学修が可能となります。

とちぎ終章学センター

宇都宮大学では、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択を受け、平成25年度から栃木県・宇都宮市・下野新聞社・栃木県社会福祉協議会・宇都宮市社会福祉協議会と連携して「とちぎ高齢者共生社会を支える異世代との協働による人材育成」に取り組んでいます。事業推進機関である「とちぎ終章学センター」(地域連携教育研究センター内)では、主にリテラシー科目「とちぎ終章学総論」の開講や一般県民向け講座「終章コミュニティワーカー養成講座」の運営、学内教員向け「地域志向

教育研究支援事業」による研究費の支援を行っています。

「とちぎ終章学」という言葉には、人生の最後の時期を困難や苦しさの中で過ごしていくのではなく、どのように豊かに、幸せに暮らしていくのかという問いと、栃木県の地域課題である高齢化をポジティブに捉え直していくという願いが込められています。

